

キャラクター名
川島 大河

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	UGN	エージェントA	カヴァー	声優
	オプション		年齢	18	性別	男	
覚醒	生誕	衝動	闘争	初期侵食率	33	%	
出自		経験		邂逅			

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	34
肉体	5	1	0			6	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	1	0	1			2	戦闘移動	9
社会	2	0	1			3	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術: 料理			知識: オヴァード			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識: UGN			情報: FH		
運転:			芸術:			知識: FH			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
通常	白兵	6r+1				
1+3+4	白兵	10r+1	6	12		パーフェクトノックアウトクリティカルボンバー!C値8。
1+3+4 (60↑)	白兵	11r+1	6	12		パーフェクトノックアウトクリティカルボンバー!C値8。
1+3+4+5 (80↑)	白兵	12r+1	6	22		パーフェクトノックアウトクリティカルボンバー!C値8。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ゲームドライバー	
ガジェットギアデュアルβ	
ガジェットギアデュアル	
リュックサック	
ケータイ	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリス	消費
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果: このシーンの間、【肉体】の能力を使用したあらゆる判定のダイスを+ (LV+2) 個する。								
コンセントレイト: キュマイラ	2	2	メジャー	—	—	—	—	
効果: C値-(LV)※最大値7								
獣の力	2	2	メジャー	武器	—	対決	—	
効果: 白兵攻撃の攻撃力を+ (LV×2) する。								
氷炎の剣	2	3	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果: 種別・技能: 白兵、命中: -2、攻撃力: LV+6、ガード値6、射程: 至近の武器を作成する。								
フルパワーアタック	2	4	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果: 白兵攻撃の攻撃力を+ (LV×5)。ただし、行動値は0になる。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

川島 大河は天涯孤独の身である。しかし、本当にそうなのかは分からない。彼にはある時期までの記憶が欠落しているのだ。自分が発見したときはもう既に一人だった、と川島の恩人であるフリーランスの先生は語っていたことを川島は記憶している。川島はその先生に拾われて生きていくために必要なことを学んできたが、川島が10歳の時にその先生は他殺体で発見された。その時にはまだ川島は10歳、川島は恩人の死により心が折れそうになったが、既に知り合いだった玉野椿、情報屋の猫川美亜、そしてUGNの霧谷雄吾など、たくさんの人間に支えられて立ち直ることができた。そのあとすぐに川島は恩人の跡を継ぎ、教師になった。あれから8年、川島は18歳になり、生徒はもちろん同僚からも信頼される教師になり、非日常の存在でありながら、日常の中で強かに生きていっているのだった。(川島は感情が非常に昂ぶると両目が猫の眼になり、満月・新月になると猫耳が生える。満月・新月を背景にレネゲイドの力を駆使して戦う川島はさながら人間の皮を被った大型肉食獣の様相を呈している。) 性格は、通常ステージより家族、仲間を守る意識が強く、ジャーム、FHエージェントに対して容赦がなくなっている。

世界は一変した。かつて自分がイリールガルとして所属していたUGNはFHとの抗争に負け、テロ組織という認識を一般人から受けている。その状況になってすぐに、川島はUGNから脱退した。その三日後、川島はオーヴァードの第三勢力として「ライダーズクレスト」を設立。「ライダーズクレスト」はUGNから抹消された者、何らかの原因でFHを追われている者など様々な境遇のオーヴァードで構成されている。「ライダーズクレスト」は様々な目的を掲げて活動している。その内容は悪徳政治家の汚職の暴露、労働者の賃金を上げたりなど、人々のためになるともいえる活動を人知れず行っている。しかし、その裏には「目的遂行を邪魔する者はたとえ非オーヴァードであっても容赦なく潰せ」という思考が渦巻いている。大体は、大物政治家が護身のためにFHエージェント、稀にUGNエージェントが護衛に就いたりしているのだが、「邪魔する者がオーヴァードであったとしても潰す」ともあるため、UGNとFHの一般エージェントはそれを警戒しているとともに強い恐怖を抱いている。

そのような「ライダーズクレスト」であるが、組織の構成員の仲は非常に良く、家族といっても差支えないレベルである。さらに、全員が甘いもの好きであるため、任務終了後、休日などに「ライダーズクレスト」全員で街の甘味処に繰り出したり、エフェクトで作った空間内でお菓子作りに興じていたりしている。そのような一家団欒の空間に時々志一と新月を川島自身が招き入れることもある。組織全員も彼らのお茶会参加を好意的に捕らえており、毎回2人はもみくちやにされるのである。